

「出世大名康くん」とめぐる

# 浜松ぶらり 街道さんぽ

浜松市の太平洋沿岸、市域の南部をなぞるように

東の端から西の端まで続いていくのが、ご存知、「東海道」である。

今なお市民の重要な生活道路として整備されている

この道は、古来より多くの大名や旅人、物資が行き交う

「天下の大動脈」と呼ばれていた。

東海道は、政治的支配の強化と幕府の安定のために、徳川幕府によって整備されたきた街道である。一定区間ごとに宿場や一里塚を設置し、象徴ともいえる松並木を植えることで、「大動脈」としての機能を作り上げてきた。

やがて、日本橋を起点とする、東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道の五つの街道が整備されると、各々の街道は人々の往来に欠かせないものとして溶け込んでいった。なかでも、安藤重葛飾北斎の風景画で有名な「東海道」は、政治の中心・江戸と京を結ぶ重要な道とされ、大名をはじめ多くの庶民たちで賑わいをみせたのだった。

浜松には2つの宿場町が設けられ、東海道の脇往還である「姫街道」には、重要な関所が置かれていた。東へ西へと道を急ぐ者たちにとって、避けては通れない「中間チェックポイント」、それが浜松だったのである。多くの人が往来し、多彩な物資や文化の交錯地点として、今に伝わる東海道。知れば知るほどに、浜松の多彩な魅力が形づくってきたことに気づかされる。いざ、浜松ぶらり街道さんぽへ。徒歩でのんびりと、散策気分で出掛けてみれば、小さな歴史のかげらを見つめる楽しさ、地域に残る伝統文化に触れる心地良さ、数々の遺構や面影の温かみに出会うことができるだろう。

拙者が案内するのじゃ!

